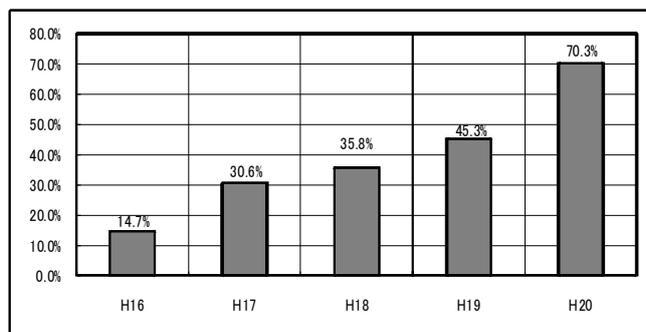


## 【施策4】 望ましい勤労観・職業観をはぐくみます

### 【施策の現状】

高度情報化や国際化などさまざまな分野において急激に変化する現代社会では、子どもたちが将来、社会人・職業人として自立することができるよう、主体的に進路を選択・決定する能力や勤労観・職業観などを育むことが重要です。

〔小学校職場見学実施率（福島県）〕



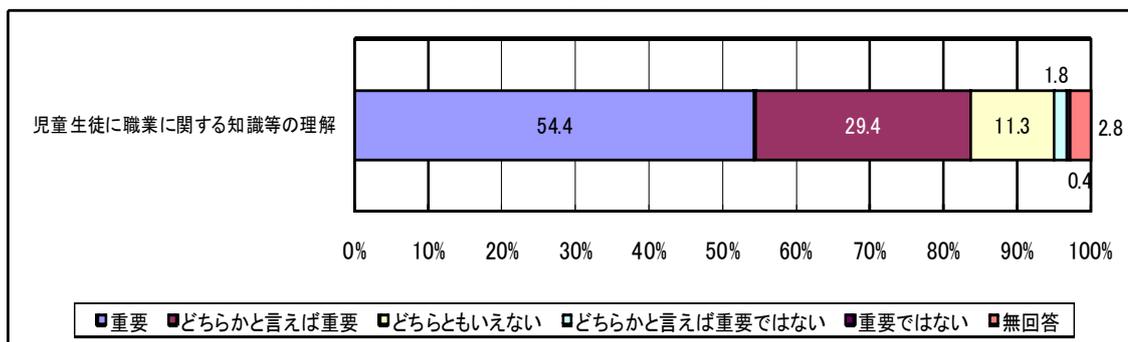
本県ではこれまでに、キャリア教育<sup>41</sup>の全県的な推進と指導者養成をねらいとした教員の研修を実施するとともに、キャリア教育の核となる体験活動を充実させるため、小・中学校にあっては職場見学や職場体験を、高等学校にあってはインターン

シップ<sup>42</sup>を推進してきました。東日本大震災・原子力災害により職場体験ができなかった学校があったものの、公立中学校の職場体験実施率は、78.9%となっています。なお、平成23年度の公立高等学校におけるインターンシップ実施率（福島県63.2%、全国平均77.2%）は震災等の影響により前年度に比べて10.8ポイント減少しています。

新規高卒者の就職内定率と県内就職率は、景気の動向により左右されるものですが、平成24年3月においては、就職内定率は、97.3%（文部科学省調べ）、県内就職率は、70.3%（福島県教育庁高校教育課調べ）となっています。

県民アンケートでは、「児童生徒に職業に関する知識等の理解」が「重要」あるいは「どちらかと言えば重要」と答えた割合が8割を超えており、子どもたちに望ましい勤労観・職業観を身につけさせることについて、県民が特に重視しているという結果が出ています。

### 〔各施策の今後の重要性について〕



<sup>41</sup> キャリア教育……児童生徒一人一人に望ましい勤労観・職業観及び職業に関する知識や技能を身につけさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力や態度を育てる教育のこと。

<sup>42</sup> インターンシップ……生徒や学生が在学中に企業等において就業体験をすること。

## 【基本的方向性】

- ・ 児童生徒が自己の在り方や生き方についての自覚を深め、社会に貢献しようとする態度を身につけ、将来充実した職業生活を送ることができるようにするため、小学校段階からの計画的・継続的なキャリア教育<sup>41</sup>の取組を推進します。
- ・ 専門高校<sup>43</sup>が地域と連携し、地域産業の振興を担う人づくりに努めるなど、専門高校における職業教育<sup>44</sup>を推進します。

## 【今後の取組】

## ◇ 教育活動全体を通じたキャリア教育の推進

他者と関わる力であるコミュニケーション能力の育成や、学ぶこと・働くことの意義を理解させるなど、教育活動全体を通して、勤労観・職業観の醸成・育成に努めるとともに、基礎的・汎用的能力<sup>45</sup>の育成など、一人一人の社会的・職業的自立に向け必要な能力や態度の育成を図ります。

さらに、小・中・高等学校それぞれの発達段階に応じ、一貫したキャリア教育の一層の充実を推進します。

## ◇ 職場体験活動の推進

小・中学校において、発達の段階に応じて職業や仕事についての理解と自己の可能性や適性についての理解を深めることができるよう、職場見学や職場体験の推進を図ります。

---

<sup>41</sup> キャリア教育……34ページ参照。

<sup>43</sup> 専門高校……農業科、工業科、商業科などの職業教育を主とする学科などを置く高等学校。

<sup>44</sup> 職業教育……一定の又は特定の職業に従事するために必要な知識、技能、態度をはぐくむ教育。  
農業高校、工業高校、商業高校などで行われている教育のこと。

<sup>45</sup> 基礎的・汎用的能力……一人一人の社会的、職業的自立に向けて必要な基盤となる能力で、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4つの能力によって構成される。

◇ インターンシップ<sup>42</sup>等の推進

高等学校においては、自己の能力や適性等を踏まえて適切な進路選択・決定ができるようインターンシップの推進を図るため、地元企業など実習先となる事業所の開拓に努めるとともに、就職促進支援員などの配置により、生徒の就職希望が実現するよう支援します。

また、学校での学習と企業での実習を組み合わせ、より実践的な知識・技能を身につけさせるデュアルシステム<sup>46</sup>の活用を図ります。

さらに、将来の地域医療を担う人づくりを進めるため、公立大学法人<sup>17</sup>福島県立医科大学（以下、「県立医科大学」という。）、市町村や地域の医療機関等と連携し、医学と地域医療に対する関心を高め、医学部進学希望の実現を図ります。

◇ 専門高校<sup>43</sup>における職業教育<sup>44</sup>の推進

地域産業の振興を担う人づくりを進めるため、専門高校においては、教員を企業等に派遣し指導力の向上を図るとともに、地域の技術者等を講師とした実習等を通して生徒の実践的な知識や技能の向上を図るなど、地域や関係機関と連携した職業教育を推進します。

## 〔施策4 指標〕

指標名	現況値	目標値	備考
県立高校生の就職決定率 (県立高等学校全日制・定時制課程)	H23年度 97.6% (参考 H22年度 94.7%)	H25年度 100%	
新規高卒者の県内就職率 (県立・私立高等学校全日制・定時制課程)	H23年度 71.3% (参考 H22年度 77.5%)	H32年度 86.0%以上	
県内企業に就職した高卒者の離職率 (県立・私立高等学校全日制・定時制課程)	H23年度 40.3% (参考 H22年度 41.7%)	H25年度 40.3%以下	新規高卒者の3年以内の離職率
インターンシップ実施校の割合 (県立高等学校全日制・定時制課程)	H23年度 63.2% (参考 H22年度 74.2%)	H32年度 80.0%以上	
県立工業高校のジュニアマイスター <sup>47</sup> 認定者数	H23年度 194人 (参考 H22年度 241人)	H26年度 250人以上	

<sup>17</sup> 公立大学法人……17ページ参照。

<sup>42</sup> インターンシップ……34ページ参照。

<sup>43</sup> 専門高校……35ページ参照。

<sup>44</sup> 職業教育……35ページ参照。

<sup>46</sup> デュアルシステム……企業での実習と学校での講義等の教育を組み合わせることで実施することにより、若者等により実践的な技能・技術等を身につけさせる仕組み。

<sup>47</sup> ジュニアマイスター……将来の仕事や学業に必要とされる国家職業資格や各種検定、及び各種コンテストの入賞実績を点数化し、30点以上を「シルバー」、45点以上を「ゴールド」として全国工業高等学校長協会が認定する顕彰制度。